厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

分担研究報告書

若年乳がん患者のサバイバーシップ向上を志向した妊孕性温存に関する心理支援体制の構築

研究分担者　氏名　大須賀穣　所属施設名　東京大学医学部　職名　教授

研究要旨

心理支援体制の構築のために他施設の関係者との意見交換を通して現時点での国内外における実態調査を行った。そして、論文発表、学会発表、セミナーでの講演を通じ、またガイドライン作成を進めることにより、心理支援と一体となった妊孕性温存治療の普及に向けた働きかけを行った。研究を通じ、患者ががん治療、妊孕性温存治療、それに伴う心理支援を包括的に受けられるための枠組み作り、ガイドライン運用、登録制度の確立の重要性が浮き彫りになった。

A．研究目的

我が国において、若年がん患者の妊孕性温存に対して、医療者の間での関心がどれほど広がっているのか調査をし、その結果に基づき学会発表やガイドライン作成を通じて心理支援と一体となった妊孕性温存治療の普及に向けた働きかけを行う。

B．研究方法

下記学会において、他施設の関係者との意見交換を通して実態調査を行い、また研究発表の項に示す講演、発表により、国内外に発信をし、妊孕性温存に関するガイドライン作りを進めた。

第 68 回日本産科婦人科学会学術講演会（4 月、東京）

第 61 回日本生殖医学会学術講演会（11 月、横浜）

第 54 回日本癌治療学会学術集会（10 月、横浜）

C．研究結果

若年がん患者の妊孕性温存に対して、関心が医師、看護師、心理士などの医療者の間で高まりつつあることが実感された。患者ががん治療、妊孕性温存治療、それに伴う心理支援を包括的に受けられるための枠組み作り、また、全国どこにいる患者でも均一な支援が受けられるようなガイドライン作成の重要性が浮き彫りになった。これを基に、現在各種学会と協力のうえでガイドライン作成を進めている。

D．考察

患者を中心とした心理支援を進めていくにあたり、患者ががん治療、妊孕性温存治療、それに伴う心理支援を包括的に受けられるための枠組み作り、および我が国の実態に即したガイドラインの運用の重要性が明らかになった。さらに、当該医療施設における心理士の配備の義務化を含めた政策上の取り組みも重要であると考えられた。さらに、ガイドラインの運用を円滑に進めるための、我が国の実態調査を踏まえた手引きの作成、登録制度も必要と考えられる。

E．結論

我が国において、若年がん患者の妊孕性

温存に対する医療者間での関心は十分に高まってきている。今後は、患者の包括的支援を行なうための、社会における枠組み作りが必要である。

Ｆ．健康危険情報

なし

（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

Ｇ．研究発表

1．論文発表

1. Vaginal Stenosis After Gonadotropin-Releasing Hormone Agonist Therapy During Treatment for Acute Lymphoblastic Leukemia. Sato M, Harada M, Oishi H, Wada-Hiraike O, Hirata T, Nagasaka K, Koga K, Fujii T, Osuga Y. J Low Genit Tract Dis. 2016 ;20(2):e11-3.

2. A potential role of endoplasmic reticulum stress in development of ovarian hyperstimulation syndrome. Takahashi N, Harada M, Hirota Y, Zhao L, Yoshino O, Urata Y, Izumi G, Takamura M, Hirata T, Koga K, Wada-Hiraike O, Fujii T, Osuga Y. Mol Cell Endocrinol. 2016;428:161-9

3. Where are oncofertility and fertility preservation treatments heading in 2016? Harada M, Osuga Y. Future Oncol. 2016;12:2313-21.

4. A potential role for endoplasmic reticulum stress in progesterone deficiency in obese women. Takahashi N, Harada M, Hirota Y, Zhao L, Azhary JM, Yoshino O, Izumi G, Hirata T, Koga K, Wada-Hiraike O, Fujii T, Osuga Y. Endocrinology.2017; 158:84-97.

5. ドイツにおける乳がん治療と産婦人科医 原田美由紀 Hormone Frontier in Gynecology 2017 in press

2．学会発表

１．小児思春期，若年がん患者の妊孕性温存に関するガイドライン作成のためのコンセンサスミーティング：小児思春期、若年がん患者の妊孕性温存に関するガイドライン―血液領域における論点― 藤井伸治，大場理恵、菊地美里、徳田桐子、薄井紀子、神田善伸、石田也寸志、高井 泰、原田美由紀、岡田 弘、永尾光一、谷本光音，第54回日本癌治療学会学術集会，2016/10/21，国内

２．小児思春期，若年がん患者の妊孕性温存に関するガイドライン作成のためのコンセンサスミーティング：骨軟部領域における論点，米本 司、遠藤 誠、中山ロバート、星 学、宮地 充、原田美由紀、西山博之、川井 章，第 54 回日本癌治療学会学術集会，2016/10/21，国内

３．がん・生殖医療に関する治療ガイドライン作成に向けて 大須賀穣 Oncofertility Consortium JAPAN meeting 2016，2016/12/11 国内

４．妊娠の仕組みと不妊治療、がん・生殖医療 原田美由紀 若年がん患者の妊孕性温存に関する心理支援セミナー，2017/1/29 国内

Ｈ．知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

なし